

授業改善の
実際

小学校外国語科 第5学年

単元名 「自分のことをもっと知ってもらおう」

（「話すこと[発表]」イ、「書くこと」イ）

本資料は、PDCAサイクルを意識した授業改善に実際について、特にCheck（評価）の段階とAction（改善）の段階に焦点を当てています。児童の学びの状況を踏まえ、CheckをActionへつなげていくための具体をまとめました。

単元について

目指したい児童の姿

- I can～.やI can't～.の意味や使い方が理解できるようにしたい。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識しながら、自分ができることやできないことなどについて話すことができるようにしたい。
- 例文を参考にして、自分のことについて書くことができるようにしたい。



単元の目標

相手に自分や身近な人のことをよく知ってもらうために、自分や身近な人ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。また、自分ができることやできないことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書くことができる。

単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「発表」	<知識> I/He/She can/can't～.など、自分や身近な人ができることやできないことを表す表現について理解している。	相手に自分や身近な人のことをよく知ってもらうために、自分や身近な人ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。	相手に自分や身近な人のことをよく知ってもらうために、自分や身近な人ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。
	<技能> I/He/She can/can't～.など、自分や身近な人ができることやできないことを表す表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。		
書くこと	<知識> I can/can't～.など、自分ができることやできないことを表す表現について理解している。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。
	<技能> I can/can't～.など、自分ができることやできないことを書く技能を身に付けている。		

指導と評価の計画

*本計画は、単元の実践を想定したPlanの段階のものを簡易的に示しています。

	目標（◆）主な活動（・）	評価			
		知技	思判表	態度	
1	◆指導者の話を聞き、できることやできないことの表現が分かる。 ・単元ゴールの言語活動におけるモデルを聞いて、本単元を通して目指す姿の見通しをもつ。 ・指導者やALTの話聞いて、それぞれのできることやできないことなどについて理解する。 ・友達に自分ができることを伝える。				評価方法（◇） 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。
2	◆自分ができることやできないことについて、伝えることができる。 ・映像に登場する2人の会話の様子を見たり聞いたりして、2人ができることを聞き取る。 ・ペアの友達に自分ができることやできないことを伝える。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。
3	◆自分ができることやできないことについて、友達と伝え合うことができる。 ・教員ができることやできないことを尋ねる。 ・ペアになり、できることやできないことを伝え合う。 ・例文を参考に、自分ができることを書く。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。
4	◆友達にほかの友達のことを知ってもらうために、紹介する友達ができることやできないことについて話すことができる。 ・児童にとって身近な教員の話聞き、できることやできないことについて、分かったことを書く。 ・友達に、前時でのペアの友達ができることやできないことを話す。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。
5	◆友達に自分の身近な人のことをよく知ってもらうために、身近な人ができることやできないことについて話すことができる。 ・友達に、誰でしょうクイズを出題する。 ・例文を参考に、自分ができることやできないことを書く。	発			<行動観察>
6	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。 ・できることやできないことなどを発表する映像を見て、分かったことや気付いたことを書く。 ・ペアになり、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話す。		発	発	<行動観察・ワークシート>
7	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話したり書いたりすることができる。 ・自分ができることやできないことなどについて、これまでの学習を生かしながら話す。 ・例文を参考に、自分ができることやできないことなどを書く。	書	書	書	<行動観察・ワークシート>
8	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。 ・自分ができることやできないことなどについて、これまでの学習を生かしながら話す。 ・単元を通しての学習を振り返る。	発	発	発	<行動観察・ワークシート・1人1台端末の記録>

授業の実際

*「話すこと [発表]」の領域について示します。



1 児童の学びの状況を把握し、次時の指導に生かす

【単元を通して目指す姿】

相手に自分や身近な人のことをよく知ってもらうために、自分や身近な人ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。

【第2時、第3時における目指す姿】

自分ができることやできないことを伝え合う表現や動作を表す表現について理解し、それらをおおむね正しく用いて話している。

●第2時における言語活動の様子

児童A: I can do *kendo*.
I can't cook.

児童B: I can ... play ...jet coaster.
I can't ... えっと ... swim?

●第2時における振り返りの記述

自分ができることやできないことを英語で言えました。次は、もっとくわしく話して、友達に自分のことを知ってほしいです。

児童A

*単元を通して目指す姿を意識していると判断した箇所

「ジェットコースターに乗ることができる」と英語で話すことができなかったため、次は、上手に話したいです。

児童B

*できることやできないことを表す表現についての理解が不十分であると判断した箇所

Check

Aさんは、単元を通して目指す姿の中にある「相手に自分のことをよく知ってもらうため」ということを意識した振り返りをしているな。第3時の導入で紹介して、ほかの児童もこの意識をもつことができるようにしよう。

Bさんは、できることやできないことを表す表現についての理解が不十分なようだ。ほかの児童にも同じつまずきが見られたから、第3時の言語活動の前に、練習の時間を設定しよう。

児童の学びの状況を把握したことを基に、第3時では、次のような改善を行いました。
・導入において、児童Aの振り返りを紹介し、単元を通して目指す姿をほかの児童が意識して活動に取り組むことができるようにする。
・言語活動の前に、練習の時間を設定し、できることやできないことを表す表現を聞いた声に出したりする機会を増やす。

●第3時の導入において

Action

前の時間の振り返りで、Aさんがとてもよいことを書いていました。Aさん、振り返りの文章をみなさんに紹介してください。

児童A: 私ができることやできないことを英語で言えました。次は、もっとくわしく話して、友達に自分のことを知ってほしいです。

「もっとくわしく話して、友達に自分のことを知ってほしい」というところから、Aさんは、「自分のことをよく知ってもらう」という単元のゴールを意識しているなと思いました。みなさんも、どのようなことを話すか自分のことをよく知ってもらえるか考えながら、コミュニケーションをとりましょう。



前の時間は、「ピアノを弾くことができる」ことを話していたけれど、今日は「ドッジボールができる」ことを追加して話してみようかな。



一番自信があることを話せば、自分らしさがみんなに伝わりそうだな。今日は「サッカーができる」ことを話してみようかな。

●第3時の言語活動の前

Action

それでは、友達と自分ができることやできないことを伝え合う活動をしましょう。活動をするに当たって、何か心配なことはありませんか？



私は、まだ上手に話せないで、練習の時間がほしいです。

分かりました。前の時間のみなさんの様子を見てると、まだ表現に慣れていない人も何人かいるようでしたから、今からポインティングゲームをして練習しましょう。

(絵カードを指しながら)

play baseball..., play the recorder..., swim..., ride roller coasters...



play baseball..., play the recorder..., swim..., ride roller coasters...

●第3時の言語活動において

それでは、練習したことを生かして、友達と自分ができることやできないことを伝え合います。



I can do *kendo*. I can play video games.
I can't cook. I can't play the piano.



I can ride roller coasters.
I can't swim.



I can play the piano. I can play dodgeball.
I can't dance.



I can play soccer.
I can't do karate.

*児童の学習改善が見られた箇所を点線で示しています。

単元のゴールを意識したり、自分ができることやできないことをおおむね正しく用いて話したりしている様子を見ることができるな。このあとも、ほかのつまずきがないか確認し、必要に応じて次の時間に改善をしよう。

2 言語活動での見取りを中間指導に生かす

【第3時において目指す姿】

自分ができることやできないことを伝え合う表現や動作を表す表現について理解し、それらをおおむね正しく用いて話している。

【第3時の言語活動】

ペアになり、できることやできないことを伝え合う。

●言語活動(1回目)において

I can play *kendama*.



I can [] volleyball.

I can't [] soccer.



I can't [] green pepper.

Check

動詞が抜けている児童が想定していたよりも多いな。本時のゴールでは、動詞を必ず用いて話している姿になってほしいから、中間指導で全体に指導しよう。

言語活動（1回目）では、第3時において目指す姿を見据えて、児童の学びの状況を把握しました。その結果、動詞が抜けている表現で話している児童が多く見受けられました。そこで、中間指導を行い、動作を表す表現について学級全体で確認しました。

●中間指導において
Action

動きを表す言葉（動詞）が抜けている人が多いので、言い方を一緒に確認したり練習したりしましょう。「バレーボールができる」は、何と言えばよかったですか？

I can play volleyball.

That's right! 「スポーツをする」は、playでしたね。

そうだった！playを言うのを忘れていた！ぼくの場合だと、I can't play soccer.と言うのが正しいね。

では、「人参を食べることができる」は、何と言えばよいですか？

I can eat carrots.

That's right! 「食べる」は、eatでしたね。

私は、eatが抜けていたみたい。言い方を確認したから、次は正しく言えそう！

言語活動（2回目）では、児童が中間指導の内容を言語活動に反映することができているか、再度確認しました。

●言語活動（2回目）において

I can play kendama.

I can play volleyball.

I can't play soccer.

I can't eat green pepper.

言語活動（1回目）で動詞が抜けていた児童たちは、中間指導の内容を意識した言語活動ができているな。このあとも、ほかのつまづきがないか確認し、必要に応じて指導しよう。

次のPlanに生かすために

- 単元や1単位時間の授業において目指す姿を見据えて、児童の学びの状況を見取る。
児童が自身の学びを振り返る機会を設定したり、言語活動中の児童の様子を観察したりすることで、児童の学習の成果と教師の指導を評価する。
- 単元の目標又は1単位時間の授業のねらいに即した授業の展開や学習活動、評価方法などについて見直し、改善を行い、次のPlanに生かす。
見取ったことを記録したり児童の学びの状況を振り返ったりしながら、Planの段階で作成した単元の指導と評価の計画や1単位時間の授業の展開などを随時見直し、継続的な授業改善につなげる。

最後に、CheckとActionの段階を踏まえ、改善した指導と評価の計画を示します。

*本計画は簡易的に示しています。詳細は、「学習指導プラン」、「単元デザイン FIRST STEP_R7版」を御覧ください。

改善した 指導と評価の計画

*改善した箇所を、**ハイライト**で示しています。

	目標（◆）主な活動（・）	評 価			評 価 方 法（◇）
		知 技	思 判 表	態 度	
1	◆指導者の話を聞き、できることやできないことの見え方が分かる。 ・単元ゴールの言語活動におけるモデルを聞いて、本単元を通して目指す姿の見直しをもつ。 ・指導者やALTの話を聞いて、それぞれのことやできないことなどについて理解する。 ・友達に自分ができていることを伝える。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。 （本資料では詳細を示していませんが、）第1時において、児童が自分ができていることやできないことは何なのか考えを整理できず、言語活動が停滞しました。児童が見直しをもって言語活動を行い、目標を達成することができるように、第2時の言語活動の前に、考えを整理する時間を設定します。
2	◆自分ができていることやできないことについて、伝えたいことを考えた上で、ペアになり、できていることやできないことを伝える。 ・映像に登場する2人の会話の様子を見たり聞いたりして、2人ができていることを聞き取る。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。 （本資料では詳細を示していませんが、）第1時から第4時までの間に、一部の児童が、意欲的に学習に参加できていない様子が見られました。学級全体の児童が意欲的に学習に参加し、単元や1単位時間で目指す姿に向かうことができるように、クイズに出題する第三者を「好きなキャラクター」でもよいことにします。
3	◆自分ができていることやできないことについて、友達と伝え合うことができる。 ・教員ができていないことを尋ねる。 ・ポインティングゲームをして、動作などのできることやできないことに関する表現に慣れる。 ・ペアになり、できていることやできないことを伝え合う。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。 （本資料では詳細を示していませんが、）第1時から第4時までの間に、一部の児童が、意欲的に学習に参加できていない様子が見られました。学級全体の児童が意欲的に学習に参加し、単元や1単位時間で目指す姿に向かうことができるように、クイズに出題する第三者を「好きなキャラクター」でもよいことにします。
4	◆友達にほかの友達のことを知ってもらうために、紹介する。 ・児童にとって身近な教員の話やできていることやできないことについて、分かったことを書く。 ・友達に、前時でのペアの友達ができていることやできないことを話す。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。 （本資料では詳細を示していませんが、）第1時から第4時までの間に、一部の児童が、意欲的に学習に参加できていない様子が見られました。学級全体の児童が意欲的に学習に参加し、単元や1単位時間で目指す姿に向かうことができるように、クイズに出題する第三者を「好きなキャラクター」でもよいことにします。
5	◆友達に自分の身近な人や好きなキャラクターのことをよく知ってもらうために、身近な人や好きなキャラクターができていないことについて話すことができる。 ・友達に、誰でしょうクイズを出題する。 ・例文を参考に、自分ができていることやできないことを書く。	発			<行動観察・1人1台端末の記録>
6	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができていることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。 ・できていることやできないことなどを発表する映像を見て、分かったことや気付いたことを書く。 ・ペアになり、自分ができていることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話す。	発	発		<行動観察・1人1台端末の記録>
7	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分の考えや気持ちを含めて話したり書いたりすることができる。 ・自分ができていることやできないことなどについて、これまでの学習を生かしながら話す。 ・例文を参考に、自分ができていることやできないことなどを書く。				（本資料では詳細を示していませんが、）毎時間の児童の言語活動の様子を見取ることに難しさを感じました。児童一人一人の学びの状況をより丁寧に見取り、次時以降の指導に生かしたり児童のよりよい学習改善へとつなげたりすることができるように、毎時間の終末に、児童が自身の話す様子を映像に記録する機会を設定します。
8	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができていることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。 ・自分ができていることやできないことなどについて、これまでの学習を生かしながら話す。 ・単元を通しての学習を振り返る。	発	発	発	<行動観察・ワークシート・1人1台端末の記録>